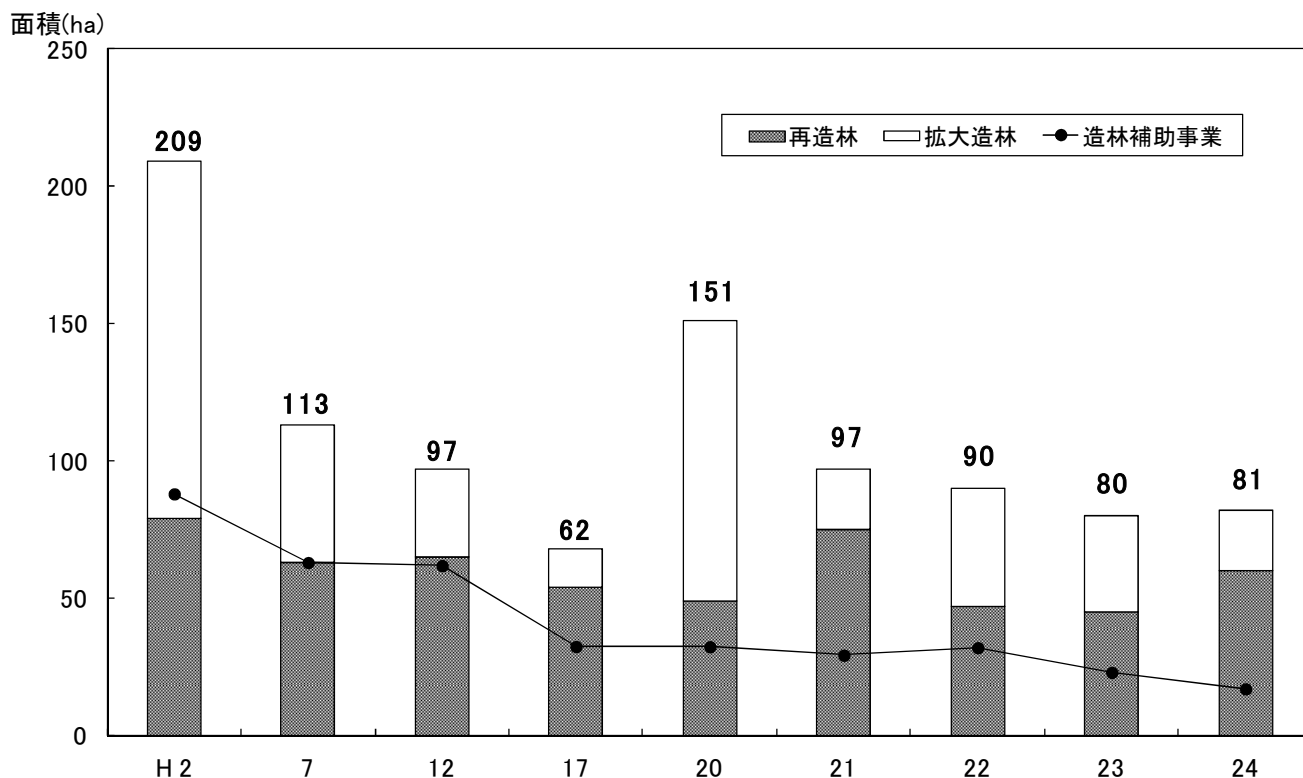


2. 森林の整備

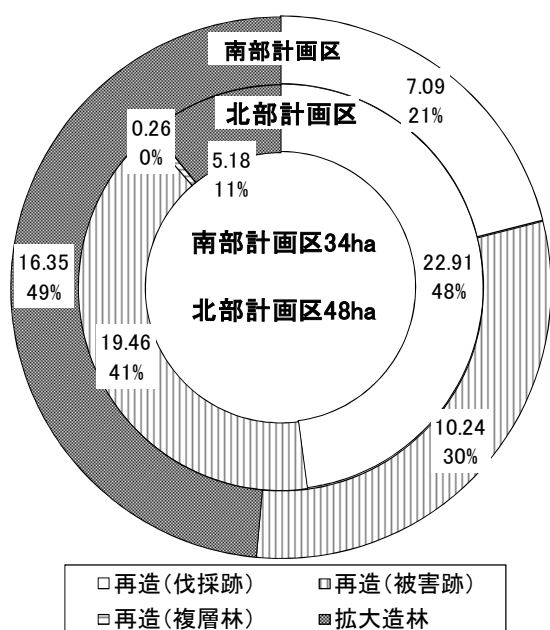
(1) 人工造林

—造林面積は減少傾向—

造林種別人工造林面積



地域別人工造林面積 (ha)



本県の造林面積は平成20年度に大きな増加を見せた後、減少の傾向にあったが、24年度の造林面積は前年度と同程度で81haであった。

この内、補助造林面積は17haであり、前年度に比べ7ha減少している。なお、人工造林面積に占める補助造林面積の割合は21%となっている。

造林種別の内訳は、再造林が前年度より15ha増加し、60ha、拡大造林が14ha減少し、22haとなっている。

24年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区は前年度より11ha増の48haであり、その内訳は、再造林が43haと90%を占めている。

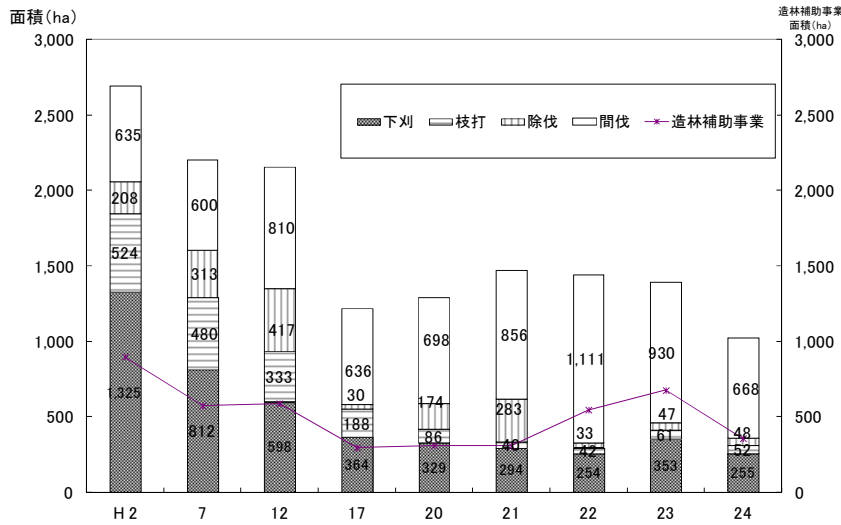
一方、南部計画区は前年度より10ha減の34haであり、再造林と拡大造林がほぼ半数の割合であった。

造林樹種別の面積構成は、スギが37% (30ha)、ヒノキ5% (4ha)、マツ36% (29ha)、広葉樹22% (18ha) であり、前年度に比べスギ、マツの割合が増加し、ヒノキ、広葉樹の割合が減少している。

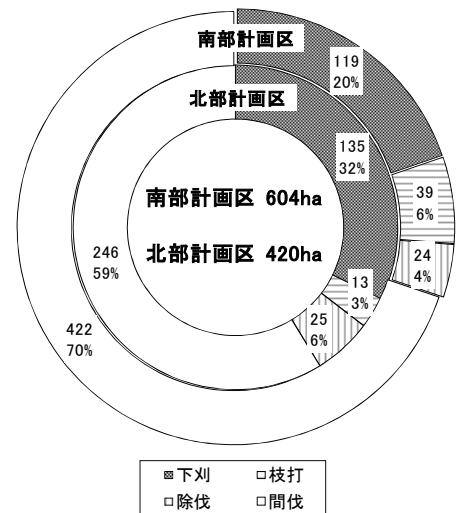
(2) 間伐・保育

—間伐・保育実施面積が減少—

間伐・保育面積の推移

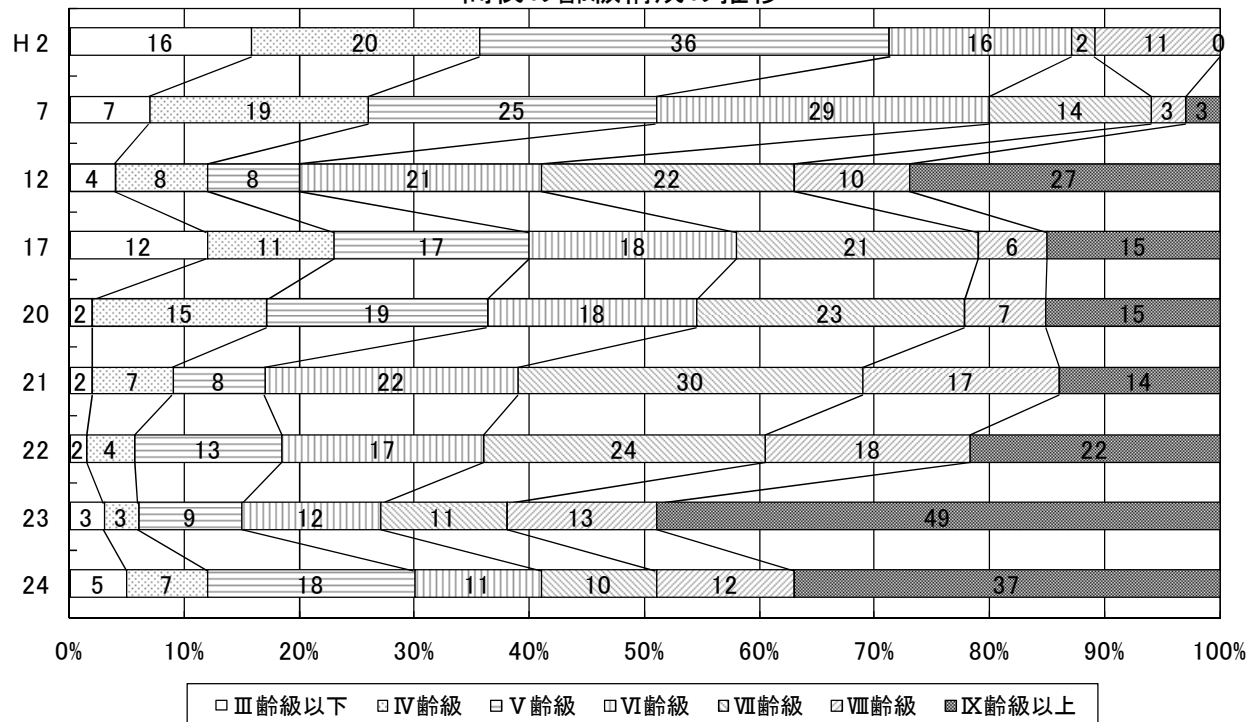


地域別間伐・保育面積 (ha)



単位: %

間伐の年齢構成の推移



本県の間伐及び保育の実施面積は、21年度に1,473haまで増加したあと減少の傾向にあり、24年度は前年度から367ha減の1,024haと大きく減少した。種類別には、除間伐が前年度から260ha減少し717haとなっており、下刈も98ha減少したため、保育面積全体としても減少した。

24年度の地域別傾向としては、北部計画区では前年度から86ha減少し、420haとなり、南部計画区では前年度から281ha減少し、604haとなっている。種類別内訳は、北部計画区が下刈32%、間伐59%に対して、南部計画区では下刈20%、間伐70%となっている。

間伐実施面積の構成を年齢別にみると、24年度はⅤ年齢級以下の割合が23年度と比較して15%増加し30%となり、若年齢級の割合が増加したが、全体ではⅧ年齢級以上が49%と約半数を占めている。